
あま、てらす！

すていつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あま、てらす！

【Nコード】

N5261BA

【作者名】

すていつ

【あらすじ】

今から20年前、人類は神に挑んだ。休暇中であつた神は人類の前に敗れ、その力は世界中に散らばってしまった。“神下ろし”と呼ばれる大事件である

その“神下ろし”の結果、神憑かみつと呼ばれる神の力の一部を内包した人間が6人誕生した

これは、神憑かみつの1人である白野クロノ君しろの（18）が他の神憑かみつの仲間と共に神を蘇らせる為の物語である

そして、作者は女装っ子好きの厨二病である

プロローグ1：1（前書き）

拙い文章ですがよろしくおねげします

プロローグ 1 - 1

今から20年前、人類は神に挑んだ。休暇中であつた神は人類の前に敗れ、その力は世界中に散らばってしまった。こんなことは子供だつて知っていることだ

“神下ろし”と呼ばれるこの出来事は世界を大きく変えることになった

まあ大きく変わったとは言つても世界の支配者が神様から人間に変わったつて事と、神憑かみつきと呼ばれる散らばつた神様の力を内包した人間が何人か誕生したつて事以外は“神下ろし”以前と何も変わつてないつて話だ

「あ」

「どうした？」

隣を歩いていた少女、幸花杏子さちばなきょうこに目を向けた

「いや、家の鍵かけ忘れたなーつと」

「お前馬鹿なの！？ もう出発してから半日は経つてゐるからね？！
うわー！ どうするんだよ！」

「まあ焦るな童貞。どうせ盗られて困る物なんか無かつたよ」

「ああ、まあ確かに」

旅に出る際に必要な物以外は全部処分したし

「……ってかお前今さりげなく俺を中傷しなかった？」

「なんなら後で隣の家のおばさんに鍵の場所を教えて掛けておいて貰おうじゃないか」

「ああ。それがいい」

多少の中傷など気にしないのが俺である

「んなことより。そろそろ寝ようぜ」

「くつ。やっぱり1日目にして宿を見つけるのは不可能だったか」

杏子が口惜しそうに呟いた

適当に眠れそうな場所を探して一軒の廃屋に入ってみると

「おやおやおや？ お嬢さん達。こんな時間に2人つきりでこんな暗がりに入ってきたやうのは感心しないなあ」

「そんなだとおじさん達みたいな悪い奴らに酷い事されちゃうぜ？」

「金は持って無さそうだが2人とも上玉だなあ。ツイてるなあおい」

屈強な盗賊達に囲まれていた

「クロノ」

めんどくさそうに杏子が俺を見た

「……あー。あんた達。言っておくが俺は男だ」

「男お？　そう言っておけば助かるとでも思ってたのか？」

「嘘ならもつとマシな嘘をつきな」

まあ確かにこんな格好してたんじゃ嘘だと思われても仕方ないか

「まあ信じなくてもいいや。それよりも今日はここでいいか？」

杏子に尋ねる

「んー。まあ及第点」

「おいおい。なんで俺たちのことがアウト・オブ・眼中なんだよ」

「俺達と寝るってことじゃね？」

「大胆発言いただきましたー！！」

「……うえっへっへっへっへ」

「あ、楽しそうなところ悪いけど邪魔だからあんた等出て行ってくれないか？」

「こんな犬小屋みたいにせまいのにあんた達みたいなムサいのがこんなにいたんじゃストレスがマッハ」

「犬小屋だと！？ 俺たちの根城を犬小屋だと！？」

「おい、ムサいだつてよ。どんまい」

「お前の方がムセーよ！」

「お嬢ちゃん達。俺達をなめてるのか？」

「あんまり調子に乗つてると……殺すぞ」

盗賊達はそれぞれの持つ凶器を取り出した

「殺されたくなかったら大人しくしてな」

いつも思ふのだが、こういう状況で怯えたりしてないって時点で相手が普通の人間じゃないって気付けないのだろうか

無理だから盗賊なんてやってんのか

「私がやるつか？」

「いいや、俺がやるっ」

何もない右手に念じる。今日はバツ「ズーカ君三世にしよう

「ん？ ……えっ？」

盗賊の1人が素っ頓狂な声を上げた

「ななななな！　なんだよあれ！」

「あん？　何のこと！　何あれええええええ！？」

盗賊達は俺の持つ武器。バツィズーカ君三世を見て腰を抜かした

「どこにそんなもん隠し持ってたがった！？　」

「いや、別に隠してたんじゃないくて、あれだ……うーん」

なんと説明すべきか

「簡単に言つとド　えもん」

「「「訳わかんねーよ！　」」」

的確な突っ込みである

「まあいいじゃんか。とりあえずさよなら」

チユドーンとバツィズーカ君三世の発射口から砲弾が飛び出した

「「「ちよつ！　まつ！　ばぎゃあああああああああああ
ああつ！！！！　」」」

「おー。飛んでく飛んでく」パチパチ

杏子の拍手と共に、彼らは星になった

「お疲れ、ズーカ君」

バツィズーカ君三世は俺が手を離すのと同時に光の粒子となった

「「寝床！ GETだぜ！」」

杏子とハイタッチを交した

プロローグ 1 - 2

「もう寝るか？」

「……」スピー

もう寝てた

さて、じゃあ暇になったのでここで少しばかり俺の自慢話と愚痴を聞いていただきたい

まず、何を隠そう俺は神憑^{かみつき}である。俺が内包しているのは神^{アーティファクト}の遺産を好きな時に呼び出し、自在に操れるという力。まあほぼ無敵の能力である。俺の鼻も高々という訳だ。自慢話はこれで終わり

続いて愚痴を少々。まず、この神憑^{かみつき}というのは本来、女性にしか現れない現象なのだそう。それはこの世界にかつて君臨していた神様は人間でいうところの女性、つまりは女神様だったかららしい

なのにも関わらず、正真正銘男の俺に、この神憑^{かみつき}が現れた。つまり、俺は特別な存在なんじゃね？とか思っではいけない。なんとこの力、男らしい格好をしていると一切機能しないのだ

つまり、何が言いたいのかっていうのは、俺は年中女装しているけど、決してそんな趣味は無いって事だ。さっきの盗賊達の視線を思い出すだけで3回は嘔吐できる

後、もう1つ。愚痴を少々って割には既に自慢話の3倍以上行数つかってるじゃねーかとか野暮な突っ込みは止していただきたい

この神憑かみつきという現象、良い所ばかりじゃないのである

大いなる力には大いなる犠牲が必要だ。って偉い人が言っているように、俺もこの力を持っているが為に犠牲を支払っている

それが嫌で嫌でしょうがないから今回、同じ神憑仲間かみつきフレンドである杏子を連れて神様を蘇らせる為の旅に出たのだ

ちなみに犠牲にしている物は恥ずかしいのでお話することはできない。内緒の秘密って奴だ

「寝ないの？ 機能不全童貞」

まさかの横槍によって俺の内緒の秘密がたったの1行でバレた。とても悔しい

「寝るわ！ 今すぐ寝てやるわコノヤロー！」

「はて？ 何に怒っているのか。機能を失った自分の息子に対して？」

「もういいから寝てくださいホントに」

この女は不謹慎にも程があるだろ

「あいわかった」

この日、俺は絶対に神様を復活させてやると心に誓ったのだった

「ふあああ」ムクリ

「おはよう。クロノ。朝立ちは大丈夫？」

「俺はなぜお前にここまでバカにされているのか分らん」

「バカになんかしてない。愛してる？」

「る？　じゃねーよ」

こいつとは幼少の頃からの付き合いだが未だにキャラが把握できていない

「さあ今日こそは街に辿り着くぞ」

「頑張ろうね。女装紳士」

「適度に俺をおちよくるよね君」

「おちよくってない。愛してる！　……？」

「うわっ、いきなり大声だすなよ。しかも結局最後“？”で締めちやったよ」

「“？” 締め of 杏子と呼ばれている私だ」

「初耳だわそんな」

なんだ“？” 締めつて

「さー出発ー」

「はいはい」

こうして俺達は最初の目的地であるチーッバという街に向け歩き出した

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5261ba/>

あま、てらす！

2012年1月14日17時45分発行